

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2023年2月20日第27号 (通巻33号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook:oribunokai



投稿：2023年2月14日 | 19:39 (PFLPのHPより)

ユセフ・マッキ

先週の月曜日(2月6日)の明け方4時頃、トルコが近代になって直面した最も激しい地震が発生し、その強さはリヒタースケールで8度に迫り、トルコ南部、推定人口1300万人の広い地域に被害をもたらし、その大部分はハタイとカフラマンマラシュのアンタクヤの分であった。この地震の影響を受けたのは他にもないシリアで、その影響はシリア北部全域、アレppo、ハマ、ラタキヤなどの主要都市に及んだからである。トルコのレジェpp・タイイッp・エルドアン大統領は、この地震を「世紀の大災害」と表現した。

そして、世界保健機関は、起こったことを目撃した上で、死者は10万人を超え、負傷者はその何倍にもなると予想し、さらに、都市の大規模な破壊と根こそぎ破壊、500万人近くが家を失い、トルコ当局は原爆500発分と地震の強さを、強く推定している。

トルコ南部が被った損失の甚大さにもかかわらず、シリア側の状況はトルコよりはるかに悪いようである。シリアで起きた地震は、13年近く続いた血なまぐさい戦争で疲弊した、すでに苦しんでいるところに起きた。また、

シリア国土の大部分を占める、なんとか回復した地域に権力が分散しており、その地域が今回の地震の影響を受けたが、他のシリア地域に比べればはるかに少ないという、鋭い分断の中で起こったのである。加えて、トルコが支援する国家のコントロール外の権力。そして、米国が支援するクルド人の「カスト」当局がある。

この現実には、被災者を助け、倒壊した建物の瓦礫に埋もれた人々を救出し、住居や衣類、食料を失った人々に支援を提供するプロセスに、深刻な複雑さを加えることになった。救援活動が1時間でも遅れば大きな損失となる中で、救援活動のための関係者間の調整には長い時間を要した。また、アメリカやヨーロッパはこれまで、シリアがアメリカの政権が課したシーザー法に服従し、ヨーロッパがそれに奔走してシリアへの経済封鎖を強化したことを口実に、被災者支援のための実質的な援助を躊躇してきた。その結果、初期の震災の反動に直面することは、一部のアラブ諸国や友好国の助けを借りながら、シリア人だけの負担となった。もしシリアが統一され、シリア人全体を囚われの身とするシーザー法から解放されていたならば、結果は違っていたかもしれないのだ。

*注シーザー法は、2019年12月20日に米国のドナルド・トランプ大統領(当時)が署名し、成立した。この法律は、シリア政府に

オリブの会通信 第27号(通巻33号)

直接的・間接的な支援を行う組織や個人に対して米政権が制限措置を課すというもの。

どのような場合でも、トルコとシリアの勇者たちに敬意を表し、賞賛を贈るべきである。彼らは、両国で苦しんでいる人々を助けるために昼夜を問わず、たゆまぬ努力を続けていた。彼らは犠牲と救済の最高の模範を示し、犠牲者の多くは被災者を救おうと崩壊した建物に突入する際に命を捧げ、正義の殉教者の仲間入りを果たしたのです。また、シリアやトルコで苦しんでいる兄弟を助け、負傷者や苦しんでいる人々の傷を癒すために、好意的でなくとも率先して行動したアラブ諸国を賞賛すべきです。

今回の地震は、両国の責任ある当局が認識していた重要な事実を明らかにしました。今回の地震は、その強さにもかかわらず、建設業者が人命を軽視し、建物の安全性に必要な条件を満たしていなければ、これほどの規模の損害には至らなかったでしょう。そんな中、震災後、建物の急激な倒壊を引き起こしたとして、数十人の容疑者が逮捕されたことが明らかになった。負傷者とその家族は、この大惨事と恐ろしい結果を招いた責任者が、今

後数日のうちに責任を問われ、処罰されることを待っている。

今回の地震は、イギリスの作家、デビッド・ハーストの記述によれば、欧米の素顔を明らかにしたとも言える。破壊と戦争のプロジェクトに多くの支援が提供されるどころ、どのような方法でも不平等な方法で、復興に関心がある。今回の震災は、民主主義と人権を振りかざす者たちが、自分たちが破壊するのと同じくらいに再建する能力もあることを世界に示す機会となった。

残念ながら、この惨劇のニュースは発生から3日後に消え始め、救助活動や死体の回収が欧米メディアの主な見出しの中に残っている。一部の人種差別主義者の無謀さは限界に達し、震災の翌日、フランスの雑誌「シャルリー・エブド」が、破壊された建物、破壊された車、瓦礫の山を描いた漫画にコメントを添えて掲載した。“戦車を送る必要はない”。もちろん、これは単なる戯画ではなく、憎悪と人種差別に染まった“悪趣味”である。



投稿日：2023年02月12日 | 10:3 (PFLPのHPより)
カゼム・アルムサウィ博士

トルコ南部とシリア北部、両国の国境都市で大地が震え、この地域がここ数年目撃したことのないような人道的大災害を引き起こした大地震である。物質的な損失に加え、建物が住民の上に倒壊した都市、また厳しい気候条件の中で、人的損失は大きい。両国で必要とされる救援の準備は、当局にはできていなかった。

シリアでは、課された制裁とその継続に直面し、困難

が反映されている。犠牲者の数は時間ごとに増加しており、その程度は今日知られていない。しかし、衛星チャンネルによって提供される直接の画像は、災害を説明し、人間の良心に付随する地震を明らかにし、それは皆にそれを公開し、悲劇、特に人災の前で実際に実践されたものを露呈した。

トルコで被災者に援助を送るために飛行機の地図のニュースが公開された、そのようなものはシリアでは見られず、欧米や一部のアラブ人が競いあう飛行機とは対照的に、シリアの人々に送られた愛のハートを地図に描

くことは美しいことである。

いずれにせよ、自然の地震は、人間の良心の地震を明らかにした、それは、メディアで所有権を持つ人々にとっての毎日の嘘と洗脳は、災害の痛みとレースであり、犠牲者の上に泣いての訴え、または彼らの悲劇の写真は、特にアラビア語のメディアにあふれている。、それらの所有者の名前は、恥ずかしげもなく、良心の呵責もなくトルコに到着した援助飛行機に描かれている。そこでは、他国の援助については一切触れられない。....

躊躇したり、操縦したり、よく知られた二枚舌ぶりを発揮した一部の人の言い分、欧米のシリアに対する一方的な制裁の決定、残念ながら、公正で独立した国際裁判所があれば、これらの決定とその所有者を、国際法、人権、国際組織の憲章に反する戦争犯罪、大量虐殺、人道に対する罪の判決を下しただろう。

災害の前では議論もできないし、家の瓦礫の下で妹の頭を守る子供の理由もない。開腹した病院で一緒にいる家族を見つけられなかった子供の正当性もない。

人間のカタストロフィーを前にして、見ている暇はないのだ。自然地震は人間の良心を揺り動かし、この問題は本人にとっても、それを主張する者にとっても試練となった。

みんなの前で起こって起こったことの後に、今シリアで苦しんでいる人々を助けるために何らかの形で動いたすべての人の誇りにある良心が揺さぶられた。

そして、トルコとシリアで起きた自然地震と、かなりの数の人と石を奪った揺れの余波..そして、すべての国の政治的意思決定者と支配者のダブルスタンダード、モラル、慣行を考慮すると、起きた大衆地震への要求は、封鎖と制裁の決定、それを主張する者やそれを推進する者の拒否となる。そして、人間の良心への救いの決定、告発、援助・支援・連帯のためのすべての機会、国境、分野の開放されるべきである

今こそ、試練の時である。現実と歴史の中での試練、人間の良心を揺るがす民衆の地震である。



投稿日時：2023年2月11日 | 10:25 (PFLPのHPより)

アブ・アーメド・ファード

パレスチナ解放人民戦線アラブ・国民関係事務所の幹部、同志アブ・アフマド・ファードは、「兄弟国シリアを襲った地震は、すべてのアラブ・イスラム諸民族と、世界の生きた良心を持つすべての人を襲った。トルコについては、西も東も、すべての人が、あらゆる能力を駆使して、トルコを支援するためのイニシアチブをとり、いくつかのアラブ諸国は、アメリカ・イスラエルの決定、そしてヨーロッパの決定とともに、トルコを支援するためのエアブリッジを設立した」と述べた。

イランは、アメリカの制約や条件、覇権から自由であり、抑圧されたすべての人々を支援することを基本としているため、シリアに到着した最初の飛行機はイラン・イスラム共和国からのものであった」「イラン国民とその勇気ある指導者へのあいさつ」と、声明の中で説明し

た。

ファード氏は、「人道的な面では、トルコ人の影響を受けた人々の支援とともに、しかしアラブ国家、それからイスラム国家がそれに求められ、トルコ人の支援を求められるように、シリアとその人々を支援することに関心を寄せている」と強調しました。毎日、毎時間、これはシリアに降りかかったこの大惨事におけるすべてのアラブ国民にとっての試練であり、テストである。シリアは、イラク、パレスチナ、レバノンなどの人々をあらゆる危機、あらゆる戦争で受け入れたように、アラブ国民とその戦士とともに1日も失敗することはなかったのだ。

ファードは、「シリアの人々は偉大であり、誰も攻撃しようとするには大きすぎる。すべての国民は、アラブの兄弟を苦しめたすべての危機において、住居を必

要とする家族に家を開放した。我々パレスチナ人は、シリアの人々の悲劇を誰よりも知り、感じている。我々は、移住、根絶、テロの地震の影響を受けたのだから。”と強調した。シオニストは75年以上、私たちは1つの民族の中の2つの民族としてシリアに住んでいたのです。

演説の最後に、アブ・アフマド・ファード氏はこう言った。“パレスチナの全党派に訴えます。” “パレスチナとシリアの人々を支援するため、能力に応じて寄付をお願いします。”



投稿日時：2023年2月12日 | 10:38 (PFLPのHPより)

アブドラ・アブセナウィ

トルコとシリアの広大な地域を襲った大地震の後、人間と政治の間に激しい逆説が生まれ、実存的な挑戦が再び宣言された。

トルコ南部とシリア北西部の広大な国境地帯は、この12年間、運命をめぐる闘争と抗争を目撃してきたが、今回の地震は、同じ場所からの別のメッセージに直面しているかのように深刻な打撃を与えた。

今回の地震は、武装クルド人集団の脅威から国の安全を守るという口実で、トルコがシリア北部で軍事行動を起こす可能性を予期させ、ダマスカスとアンカラの間で立場が矛盾している。

もっと危険で重大な他の危機も、この地の記憶から消えてはいない。シリア危機の最初の場面で、トルコで最も被害を受けたガジアンテプ市は、「ムジャヒディーン」と呼ばれる人々をキャンプに集めてからシリアに渡すという基本的な役割を獲得していた。

今は写真も変わってしまったが、苦渋はその重荷を軽くしてくれる誰かを探して立ち往生している。

トルコ側では、瓦礫の下に閉じ込められた何千人ものシリア人犠牲者のために、援助、救援、救助の道具を入れるための通路を開くよう人道支援団体から要請があった。

この地震の悲劇を政治問題化しないよう国際的に繰り返し呼びかけられたにもかかわらず、支援の手を差し伸べるのに国際的な遅れが目立ちました。瓦礫を取り除き、家族全員を死から救うことができる道具が導入されず、必要な援助がタイムリーに届かなかったのです。

人道支援の基本は「間に合わせること」「遅れないこと」である。

このような状況では、道徳的なテストが重要である。

* 政治的には、世界のどの国も、トルコとシリアへの人道的連帯を表明し、被災者の救済に協力することを躊躇していない。

* 現実的に、シリアは必要な援助や救援が迅速に到着することはなく、公約と現場での行動は一致していなかった。このため、時間がなくなり、犠牲者の数が増加していることから、国連、欧州連合、国際機関への苦情の電話が必要となった。

シリアの犠牲者への援助到着の遅れを正当化するために、その土地すべてを管理する統一された権威がないのと同様に、緊急の人道ミッションを促進するメカニズムがなく、物流の問題が援助の円滑な到着を妨げていると言われた。しかし、それは半分だけである。

実際、シリアの被災地は、3つの対立する当事者の間で分断されている。

一つはダマスカスの中央に従う地域、二つ目はトルコの保護を受ける過激派武装グループの支配下にある地域、そして三つ目はクルド人武装グループの支配下にある地域である。

もう半分の真実は、援助物資の配送が遅くなったのは、シリアに課された経済制裁を発表したわけではなく、余談に過ぎないということである。

瓦礫の下に閉じ込められた人々を救出するために必要な援助と機材を迅速に搬入するよう国際的に繰り返し呼びかけられたにもかかわらず、人道的なファイルには政治的な問題が存在していた。

人間の良心が騒いだとき、事態は多少動き始めたが、耐え難い霜に照らされた悲劇的な状況が要求するレベルより低いものであった。

シリアの試練において、その人々は過酷な状況にもかかわらず、生きるための強い意志を明らかにした。彼は犠牲者を救うために立ち上がったが、もっと必要なことがある。

アラブ世界が彼に寄り添い、生活必需品に必要なもので支援キャンペーンを組織し、欧米に経済制裁の解除を要求する前に、彼に対する包圍網を解いてくれる人間的な存在が必要なのである。



アレッポ

政治的には、シリアの孤立を解消し、アラブ世界の諸問題に関与する主要なプレーヤーとして、シリアを再びアラブ世界に復帰させる方法を真剣に模索する必要がある。

震災前、シリアのアサド大統領とトルコのエルドアン大統領が会談する可能性があることが公式に発表された。

共通の悲劇は、シリア人だけで憲法基盤を策定する政治的解決を求めて、和解の可能性を進める、あるいは少なくとも危機のレベルを下げるのに役立つかもしれない。

エジプトのような国にとっては、和解プロジェクトを考へ得る最も遠い地点まで進めるために、できる限り干渉することが戦略的利益になるのである。

政治的地理的な現実から、シリアはエジプトにとって他国に先駆けて国家安全保障の問題である。特にシリアが、近代アラブの思想を何よりも先に受け入れた国であることは、偶然の一致ではない。また、“アラビズムの鼓動”と表現するのも、雄弁ではない。アラブ東部という立地条件から、その天然の資本である。

エジプトの国家安全保障との関係から、彼の双子のような存在である。そして、地中海に面した海岸の延長線上にあることから、戦略的な中心地である。

シリアは、まさにこのような運命の国なのだ。震災の試練にあるその国民との連帯は、好意でもなんでもなく、自分たちとの連帯なのだ。

今、私たちに突きつけられている最も重要な課題、それはシリアの孤立を終わらせることです。



イドリブ



イスラエルによる強硬な弾圧の前に、パレスチナ人の非組織的な抵抗が拡大している

組織的な背景をもたないパレスチナ人による抵抗が拡大している。

1月26日に、イスラエル軍がジェニンで、9人のパレスチナ人を殺害し、その翌日には、エルサレムの入植地で、パレスチナ人の青年が、7人の入植者を殺害し、撃ち殺された。

そして、さらに、13歳の少年がシリワンで、拳銃で入植者の親子を銃撃し負傷を負わしている。

その後も2月1日にザラタ検問所で、ひき逃げ作戦で2人のイスラエル兵が負傷し、2月4日には、ラマラの西でイスラエルの車両に対する銃撃があった。同じ日には、デヘイシャキャンプで、青年たちが入植者を攻撃し、武器を奪った。1週間以上包囲が続いた、ジェリコで、5人の青年が殺害された。

イスラエルの無慈悲な攻撃と、入植者たちによるパレスチナ市民に対する攻撃、イスラエル政府による入植地の拡大を行っており

和平をもとめる国際社会の声を無視して、併合政策を進めている。そこには、国際社会がもとめる2国家解決方式など成立する余地もなくなっており、そこに望みをかけていた自治政府は、ますます、存在意義を失っている。

ネタニヤフは明確に、主権と安全保障をもたないパレスチナしか認めないことを明言している。彼と連立を組む宗教シオニストたちは、パレスチナ人の存在そのものを認めていない。

これに対するパレスチナ人の怒りが組織的行動ではなく、個人の怒りとして、これらの行動を生み出している。

組織的な背景を持たないパレスチナ人の行動に対して、ネタニヤフ政権は、より集団的な懲罰を拡大し、その親族、友人にまで拡大して、逮捕し、家の取り壊しなどを行っている。集団的な懲罰を拡大することで、パレスチナ人の行動を抑制しようと考えているが、それは、パレスチナ人の怒りを拡大するだけであり、状況を悪化させるだけである。また、極右のベングビエールはイスラエル人の武装の拡大を呼びかけている。

一方で、ネタニヤフは国内のユダヤ人に支持されているわけではない。イスラエル国内では、ネタニヤフ政権の司法改悪に対して、反対の声が拡大し、継続している。これは、組閣にあたって、前科のあるシャス代表を入閣させるために、最高裁の決定よりも、国会の決議が優先したことによるものである。これは司法の独立を完全に否定するもので、これには、同じように汚職の罪を問われているネタニヤフ首相自身を免罪するものでしかなく、イスラエル国民にとっては、イスラエルの「民主主義」を否定するものでしかない。政権の宗教的な性格と合わせて、世俗的なイスラエル人にとって危険なものに映っており、ネタニヤフの公邸に、大規模な抗議行動が連日続けられている。

イランとイスラエル

また、イランとの関係では、イランへの直接的な攻撃をイスラエルは、行っている。イラン政府の1月30日の発表で、28日にイランの軍需工場がドローンで攻撃され、イスラエルが行ったものと発表している。これまでも、イランとイスラエルは、アラビア湾での艦船への攻撃、また、シリア国内のイランとヒズボラーの施設に対する爆撃などを繰り返している。

イスラエルは、唯一の中東での核保有国であるという地位を脅かされないために、イランの核保有をさせないために、攻撃をくりかえしてきた。

また、イランとの脅威は、湾岸諸国などのアラブとの同盟を結ぶ条件になっており、イスラエルの戦略上の要となっている。これは、現在の極右政権だけでなく、イスラエルの歴代政権の課題としてある。一貫して、欧米のイランとの核協議には反対してきた。

入植者たちのパレスチナ人に対するテロの拡大

入植者たちは、イスラエル軍の保護を受けながら、パレスチナ住民への攻撃を行い、土地の不法占拠や、パレスチナ農民の収穫物を盗んだり、パレスチナ人住民への嫌がらせが続いている。これは、占領当局の、無許可の建設などを口実にした、住民の追放と家の取り壊しと一

体のもので、併合政策の一部となっている。

また、2月12日イスラエル政権は9つの入植地前哨地の合法化を図った。これまで、イスラエル法律でも入植地前哨地の設置は違法とされ、イスラエル当局に撤去されてきたが、前哨地の合法化を要求してきた極右シオニストの要求に屈する形で、パレスチナ人の「テロ」への回答として行っているとネタニヤフは言っている。これは、火に油を注ぐものであり、欧米は、この措置を状況エスカレートさせるものとして非難している。

パレスチナ人の抵抗はさらに拡大することになる。

2月の5日にトルコ、シリアで2回の巨大地震が起こり、広範な地域で建物が倒壊し、人々はその下敷きとなった。とりわけ、内戦状態にあったシリアでは、長年の内戦で疲弊しているところに自然災害までおこり、トルコに避難していたシリア難民は、遺体となって、故郷に戻っている。また、100人以上のパレスチナ人も犠牲になっており、パレスチナを含む世界中から救助隊と救援物資が送られている。自然災害は人の手で、止めることはできないが、戦争、内戦、占領は人が起こしたものであり、それを止めることは可能である。



投稿日時：2023年2月14日 | 19:38 (PFLPのHPより)

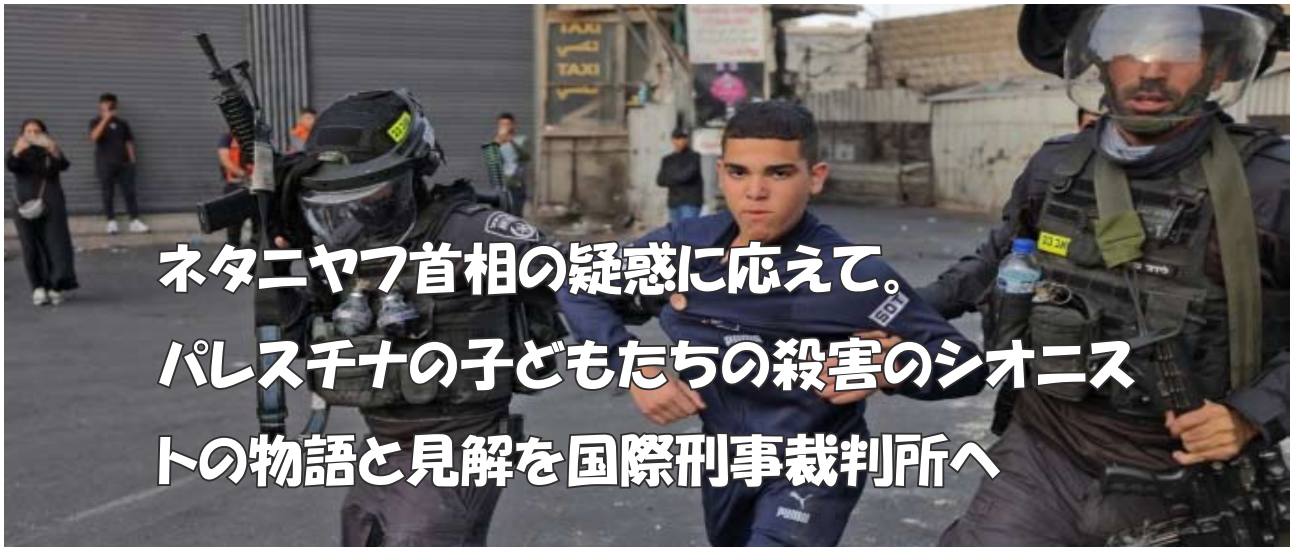
タラル・オカイ

占領国家であり国家テロであることに加えて、人種差別主義者でありファシストであると評されるイスラエルの新政府の選出によって、シオニストの基本プロジェクトは、そのすべての不正義と残虐性をもって完成される。そしてアラブ地域にまで及んでいくだろう。

今日のイスラエルの現政権は、イスラエルの国連常任大使ギラード・アルダンが一度ならず述べたように、自分たちが土地の所有者であると考え、パレスチナ人のすべての国民的権利、さらには市民的権利を干上がらせる方向にその事業を動かすことに照準を合わせている。ここはユダヤとサマリア、父と先祖の土地であり、このエルサレムはイスラエルの統一された永遠の首都である。これが、ヤイア・ラピドの言うところの犯罪者政府が示した確固たる決意である。

もはや交渉や和平プロセスに賭ける余地はなく、たとえ矮小で、分裂し、弱く、意思も尊厳もない2つの国家のビジョンにさえも賭けることはできない。シオニストのプロジェクトは、人種差別的ファシスト連合の政策に現れているように、今日、パレスチナ国家を樹立できないことに焦点を当てているとすれば、この土地にパレスチナ民族が存在することを見出さない未来の次元を含んでいるのである。この結論は、コップの中の占いや天文学的な予言ではない。なぜなら、現政権をイスラエルの脅威と考えている世界のイスラエル人とユダヤ人のセクターを刺激する証拠があり、目に見えて読み取れる現実だからである。

この政府に対峙するパレスチナ人は、団結の回復、改革、平和的・政治的・外交的抵抗のエスカレートによって、民族の義務を遂行すれば十分であり、イスラエルが孤立の檻に入り、内部不安と矛盾がエスカレートしていることがわかるまで我慢すればよいのである。



ネタニヤフ首相の疑惑に就いて。 パレスチナの子もたちの殺害のシオニストの物語と見解を国際刑事裁判所へ

投稿：2023年02月01日 | 09:42 (PFLPのHPより)

パレスチナ人に対するシオニスト犯罪戦争のエスカレーションと、占領軍と植民地支配者に対するパレスチナ人の正当かつ英雄的な作戦に照らして、ヘブライ語のメディアはパレスチナ人に襲いかかり、彼らを扇動した。元首相の公式報道官だったオフィール・ゲンデルマンは、次のようにツイートした (Twitter-29-1-2023)。“マイナーなパレスチナのテロリストのイメージ。パレスチナ社会でのみ、子どもたちを殺人者になるように育てている — と、パレスチナ人、特に子どもを標的にして殺害する方法論と方針を無視している。中でも、それを煽る宗教文書、声明、見解が大量に存在すること。以下は、彼らの政治、イデオロギー、血塗られた犯罪の見解を暴露する輝かしい例である。

この疑惑、調査、歪曲に対して：バニ・シオンのラビは、人種差別の議員やアラブ人に対するテロや殺人の実践に対して、あらゆる機会、場面で諸見解を出しており、シオニスト主体のチーフ・ラビ、シュロモ・ゴレンが述べていたことが挙げられるが、それに限定されるものではない。“「パレスチナ人はいない。パレスチナ人と呼ばれる人々は、この国でいかなる民族的権利ももっていない。」とネタニヤフの首相のラビであったラビ・モシェ・ビントフは宣言し、また、“パレスチナ人は残酷なアマレク人の種族から来た”とビントフは言った“キルヤットアルバ”のラビ、デビッド・ドクマンなどパレスチナ人の過激化は、“彼らはナチスのように見える”としてアラブ人を説明しました。

ユダヤ教の宗教的見解の中で、アラブ民族に対する流血テロを呼びかけたもので最も危険なのは、「シャス運

動」のラビ、オバディア・ユセフが述べたもので、「アラブ人は悪、パレスチナ人は蛇、神はこのイシマエルの息子（アラブ人）を創造したことを後悔している」と表現、後にムフティーを表明しています。彼はこう言った。“アラブ人に慈悲をかけてはならない、彼らを絶滅させ、地球上から消し去るためにミサイルで爆撃しなければならない”と。

また、同じユダヤ教の宗教立法による人種テロリズムの方法論について、ユダヤ教の首席ラビの一人がこう宣言していた。“アラブ人の血はユダヤ人の血と似て非なるものだ”ユダヤ教宗教学校「ヨセフ・ハイ」のラビ、アイザック・ギンズブルグは、アラブ人を評して、ラビの事前の見解を補強して、こう言った。「アラブ人は元来動物であり、律法は彼を野蛮な人間として描写している。ユダヤ人の血とアラブ人の血には違いがあり、この違いは律法の中に見出される」。ラビ自身は犯罪者ゴールドスタインを賞賛し、こう言った。“彼が犯したことの中で - 彼は神を聖別し、命を救い、復讐し、悪を燃やした” “彼はパレスチナ人の追放を求めた”そしてアラブ人の殺害を求める見解の中で最も顕著だったのは、ナブルスの西部入植地イーツハルのラビ、デヴィッド・クヴィッツが発したもので、次のように語っている。“アラブ人の殺害は道徳的な問題を構成しない”

アラブの殺戮と流血を正当化するプロセスは、シオニスト社会では普通であり、日常的であり、受け入れられている。このような背景から、パレスチナの子もたちを狩り、殺し、その範囲を可能な限り拡大することを目的とした占領政策を理解することができる。占領当局は、パレスチナ人の子もたちの殺害に関する政策や指示の真相を明らかにしないことに熱心であるが、多くのイスラエルの情報源は、特定のケースでその事実を明らかにして

いる。

そして、幼いうちに殺すという方針に従う以上、なぜ11歳になるまで待つのか？では、なぜ3歳や4歳、あるいは生後1カ月半のときに殺さないのでしょうか。そして、なぜ生まれる前、つまり母親の胎内にいる間に殺さないのか？

彼らはパレスチナの子どもたちを焼き殺すことを望んでいる

こうしたラビの見解や軍の指示は、イスラエルの社会文化にもなり、イスラエルの教育機関で教えられ、何百冊ものヘブライ語の本に記録されている科目にもなっている。イスラエルの研究者アシ・シャラビは、ロンドンの大学の教授で構成される委員会に提出した研究の中で、これらの次元をすべて強化した。Maariv新聞は、この研究の要約を掲載し、次のようにコメントしている。

“イスラエルの研究者は、シオニズムの衣を脱ぎ捨て、ロンドン大学経済学部で社会心理学の研究に専念した後、イスラエル軍のテロ対策部隊の一つの元将校であることを忘れて、最近の期間に広まったいくつかの現象を監視しようとし、彼の新しい研究は、80以上のイスラエルの子供たちにそれを適用し、現在のイスラエル人の世代は、何とも言えない程度にシオニズム思想を新しい世代の子供たちに受け継ぐことが出来たことを示しています。実際、シオニズムの教えは、新しい世代に自動的に、おそらく律法の教えそのものの伝達よりも大きな形で伝達され、親の世代は、子供たちの世代の心に何を植え付けるかを知っていた。10歳未満では、憎しみと怒りの感情は、すべてのアラブ人が感じているものである。研究されたすべての人がパレスチナ人の子供の死を喜ぶか、または任意のパレスチナ人の人物の暗殺のニュースを聞く程度に、これらの子供たちは非常に早い年齢であり、イスラエルの研究者は、結果と原因、そしてそれが言うように彼の行動ステップの理由を知るために、この現象を監視しました。彼は、この地域の政治的、市民的観点から見て、昨年は非常に奇妙に過ぎていったことを発見した。2000年8月、エフード・バラクが紛争の終結を約束し、2001年8月にはシャロンが暗殺政策について語り、2000年8月にはバラクもエルサレムへの入植について話しているのを見つけた。今、シャロンはオリエント・ハウスを占拠している - ヘブライ語新聞「マーリブ」。

イスラエルの研究者は、ドルフィナリウム・ナイトクラブで起こった致命的な事件の後、84人の子供たちに話を聞いた。その研究者の結論は、「ユダヤ人の子供たち

のパレスチナ人に対する憎しみは、想像力の限界に達している」であった。8歳以下の子どもたちは、パレスチナの子どもたちは目が見えないとか、歯を削られるとか、死ぬか、エイズに感染して地獄の業火に焼かれるに違いないと想像している。そう、これらの結果はすべてユダヤ人の子どもたち自身によって承認されたものであり、彼らは非常に醜い言葉を使ったのである - Maarivが発表した。

研究者によれば、それぞれの子供に架空のパレスチナの子供にメッセージを送るよう求め、さらにその子供の絵を描かせたところ、8歳を超えないこの子供たちがいかにこの憎しみを内に秘めているか、その結果に彼は驚き、恐怖と憎悪が混ざり合い、それぞれが他を発火させることが確認されたと言うのです。

冒頭、研究者は言う。子供たちに想像上の手紙を書かせたところ、誰もが予想を超えた2つの質問をしてきたことがわかった。一つ目の質問。パレスチナに送るのは、善か悪か？二つ目の質問。侮辱的な言葉を使ってもいいのか？

ユダヤ人の子どもたち自身が書いた手紙のサンプルを紹介しよう。

- イスラエルの少女は、架空のパレスチナの少女に宛てた手紙の中で、次のように書いている。あなたが死ぬこと、病気になることを望みます。私は、あなたとあなたの家族が死ぬのを見る日を待っているのです。

- 別の女の子は、“絶対に、絶対に、絶対に、あなたが私たちにしていることは嫌だ、あなたの死を願う”と書いている。

- 別の子は、嫌なムハンマドに向かって、「死んでほしい、あなたの人生が悪くなってほしい、あなたがやっているすべてのテロのために、あなたを愛していないし、憎んでいる、あなたが地獄で焼かれることを望む」と決して書かない。ちょうどイスラエルの子が、パレスチナのムハンマドのイメージを、恐ろしい鋭い歯を持った老人のように想像したように。

- 別の人はこう書いている。ナイフを持って、お父さんとお母さんに突き刺して、自爆しなさいということです。

- イスラエルの少女が書いた。悪い民族の小さな女の子に平和がありますように。私はあなたにお願いしたいことがあります。あなたのお父さんに、私たちを爆撃するのをやめるように、そして平和になるように言ってください。

パレスチナ日誌

2022年11月16日

- ・入植者がサルフィットの西で、市民の車を攻撃。
- ・占領軍は、アリエル作戦の実行者である殉教者ソウフの家を計測した。
- ・占領当局がする・バヘル村の家を取り壊した
- ・ベツレヘムの北東のコンテナ検問所を占領当局が閉鎖
- ・ヘブロンで、入植者が車を攻撃し、女性が負傷した。
- ・イスラエルは、シェケド入植地に銃撃攻撃があったと主張、家がダメージを受けたが、負傷者なし。
- ・エルサレム、占領自治体職員がサラハ・エルディン通りの家を取り壊した。
- ・占領軍はヘブロンの中のいくつかの通りを閉鎖した。

11月17日

- ・占領当局は、ベツレヘムの南の数百ドノムを没収することを計画している。
- ・イスラエルは、サルフィット作戦の実行者の家族のメンバーへの数百の許可を撤回する決定をした。
- ・入植者が、ヘブロンで2人の兄弟に唐辛子スプレーをかけた。
- ・抵抗運動の戦士たちは、ヨセフの墓を襲撃したとき占領軍を標的にした。
- ・イスラエルの特殊部隊は、ヤモウンとカバティヤの2人の青年を誘拐した。
- ・占領軍は、工場の操業停止を通告した後、アルツワナの村を襲い、トラックを没収した。
- ・ヘブロン自治体は、入植者の市民の土地、自治体の財産への攻撃を非難。
- ・占領軍は報道写真家アブデル・シャラデヘブロンで逮捕した。
- ・占領当局は、マサフェール・ヤッタの県瀬中の学校の取り壊しを通知した。
- ・ヘブロン入植者たちは、テル・ルメイダの古代の遺跡に入植地道路を建設している。
- ・ヘブロンで、入植者の銃弾で市民が負傷。

11月18日

- ・国連で、パレスチナ人の自決権を支持に過半数以上が投票
- ・占領軍は、刺殺作戦を企てたとして、ヘブロンで青年を逮捕。
- ・ナブルスの東と南で占領軍との衝突で負傷者
- ・シリワンのワディ・ラババで偽の墓をつくっていることへの抗議行動
- ・占領軍は、 Beit・ハノウンの検問所で市民を逮捕
- ・エルサレム、ジャマル・アムル博士は、旧市街からの追放を条件に釈放された。
- ・衝突が勃発。トルカレムのカドーリエ大学のキャンパスを占領軍が襲撃した。
- ・カフル・カッドムの行進の占領軍による弾圧で、金属弾で4人が負傷。
- ・ヘブロンとドラの2人の青年が逮捕された。

- ・占領軍の厳しい規制の中で、数百人の入植者がヘブロンを急襲した。
- ・占領軍は、北部ガザでフェンスを抜けよとした容疑で青年を逮捕した。
- ・アロウブキャンプでの占領軍との衝突で窒息の負傷者。
- ・ジェリコの西で、アルマジラト地区で入植者たちが少年を攻撃し、逮捕された。

11月19日

- ・入植者たちが、ヘブロンの家を攻撃し、車を破壊した。
- ・入植者の急襲を確保するために、ヘブロン中央部を閉鎖し、3人の子供を逮捕した。
- ・イスラエルのシリアへの侵略で4人の兵士が死亡し、他が負傷した。
- ・ナブルスでの占領軍との衝突で、実弾で、青年が負傷した。
- ・ジェニンの西で占領軍との衝突で窒息者
- ・占領軍は、アルアクサで教師のファウイズ・アガバリヤを逮捕した。
- ・占領軍は、イスナ町を急襲し3人の市民を逮捕

11月20日

- ・占領軍は、ヘブロンで青年を逮捕し、武器を没収したと主張。
- ・国連当局者は、ヘブロンでの入植者たちの攻撃に警告した。
- ・占領軍は、エルサレム市民にシリワンの自分たちの家を取り壊すように強制した。
- ・ベツレヘムの東で、占領軍は二人の姉妹を攻撃した。
- ・エルサレムの旧市街で、青年を逮捕し、攻撃した。
- ・占領軍は、入植地で治安政策を変更することを決定した。
- ・国際子どもの日で、ガザで子供への暴力を終わらせるように呼び掛けるデモが行われた。

11月21日

- ・アルブレイジの東で占領軍は羊飼いに銃撃し、催涙弾を発射した。
- ・占領軍は、ナブルスの南で、家と農業施設を取り壊した。
- ・ベツレヘムの東での占領軍との衝突で負傷者
- ・いくつかの欧州諸国と英国の外交官はヘブロンへの連帯の訪問を実施。

11月22日

- ・サッフアの入植者たちの急襲に対する対応で市民が負傷。
- ・西岸とエルサレムで逮捕キャンペーン
- ・ジャーナリストラマ・ゴーシェの自宅軟禁が更新された。
- ・グリックに率いられて、入植者たちがアルアクサを襲撃
- ・シリワン、エルサレム知事の家が急襲された。
- ・Beit・ウマルの入り口を市民の葬儀が通過するのを占領軍が阻止、催涙ガスで窒息者
- ・サルフィットの西で、8通の建設停止家屋の取り壊しの通告
- ・ナブルスの南で投石で5人の入植者が負傷。

11月23日

- ・イスラエルは、エルサレムの警戒態勢を第三段階にあげた。
- ・ベングビールは、西岸での暗殺と侵略にもどることを呼びかけ

- ・ヘブロン以南で占領軍は、学校を取り壊した。
- ・占領軍は、ベツレヘムの南で農業部屋を取り壊した。
- ・諸党派は、エルサレム作戦を祝福し、イスラエルの犯罪に対する反撃と考える
- ・占領軍は、ヨルダン渓谷で12頭の乳牛を没収した。
- ・占領当局は、サルフィットの入植地前哨基地の合法化を許可した。
- ・占領軍はアルツルの青年を逮捕した。
- ・ジェリコの北で、11の建物建設停止と20構造物の撤去を通告。
- ・EUは、欧州の寄付で建てられた学校をイスラエルが取り壊したことにショックを受けている。

11月24日

- ・イスラエルは、ジャラメとサレムの入境所を閉鎖することを決定。
- ・占領軍は、西岸で13人の市民を逮捕
- ・占領当局は、カフル・アルディークの3つの農業部屋を取り壊した。
- ・ガザ、漁師がゴム被弾で負傷し、占領軍は市の東部に催涙弾を発射した。
- ・ラマラの北で、占領軍は、2つの農業部屋と古美術品を没収し、土地を一掃した。
- ・イスラエルはガザの労働者を作戦を計画した容疑で逮捕
- ・ Beit-Umar で3人の市民の逮捕の際に窒息者

11月25日

- ・イスラエルは、ガザの労働者への数十の許可を取り消した。
- ・ジェニンで占領軍は、青年を逮捕し、車を没収した。
- ・ナブルス：Beit al-Hajj の衝突で負傷、Beit al-Dajan での行進を占領軍が弾圧
- ・イスラエル兵は、テルルメイダの人々の連帯活動を攻撃

11月26日

- ・EUは、マサフェール・ヤッタの学校の占領軍による取り壊しを非難。
- ・ルマナとジャバの占領軍との対峙で負傷者
- ・ダブルエルサレム作戦で2人目の入植者が殺された。

11月27日

- ・占領軍は、2人のエルサレム市民の子供を攻撃し、逮捕した。
- ・占領軍は、北部国境で軍事演習を行った。
- ・ベツレヘムでクリスマスの飾りつけが始まる。
- ・社会主義インターは、入植地と家の取り壊しをやめるように呼び掛けた
- ・占領自治体の職員がシリワン近隣の襲撃
- ・西岸で捜索と逮捕
- ・労働者が占領軍の銃弾で負傷し、逮捕された。トルカラムの北で
- ・エルサレムのダマスカス門で青年が逮捕された。

11月28日

- ・占領軍は、西岸とガザで21人の市民を逮捕。
- ・イスラエル；西岸での入植地前哨地を合法化するために数

千ドノムを没収する計画。

- ・占領海軍は、6人漁師を逮捕し、彼らの船を没収した。
- ・サルフィットの西で占領当局は建設中の家を取り壊した。
- ・占領当局は、兄弟に面会に来た少女を逮捕した。
- ・ナブルスの西の軍事検問所で占領当局は4人の市民を逮捕した。
- ・占領軍は、シリワンの子供を逮捕
- ・ヘブロン東の2軒の家を許可をとっていないことを口実に占領当局は取り壊した。
- ・占領軍は、ヘブロン青年を逮捕
- ・占領軍は、2人の子供を逮捕し、少女を傷つけた。ハリスで

11月29日

- ・占領当局は、占領軍が子供を攻撃するビデオを投降したことで活動家を逮捕
- ・Beit-Umar で占領軍の襲撃で15人以上の市民が負傷
- ・ジェニンの西で占領軍の銃弾で労働者が負傷した。
- ・Beit-Umar で占領軍の銃弾で、一人の殉教者と数十人の負傷者
- ・Beit-Umar で殉教者ムフィード・ハリールの葬儀で窒息での負傷者。
- ・Beit-Umar の衝突で、3人の市民と救急隊員が負傷・サルフィット；占領当局は、8軒の家の建設の旧市を通告

11月30日

- ・アルムガイルでの占領軍の襲撃で、青年が殉教した。
- ・エルサレムのシェイクジャラで若い女性を逮捕
- ・西岸とエルサレムで逮捕
- ・Beit-Hanoun で検問所前で医療機器の反物を強化をイスラエルに呼び変えるスタンディングが行われた。
- ・ライオンズ・デンが殉教者たちの魂を弔うための全面ストを呼びかけ。
- ・アルムガイルの村で衝突のあと、占領軍は2人の子供を逮捕した。
- ・占領軍は、活動家イツサ・アムルの家を彼を釈放すると決定したあとに襲撃。
- ・ラマラ近くで、入植者がパレスチナ人の車に発砲
- ・追跡されたいたが占領軍の銃弾で殉教した。ジェニンの南で家が包囲されたあと。
- ・国連総会でパレスチナ問題の会期が持たれた。
- ・数千人がヤバドのダルナで殉教者の遺体を弔った

12月1日

- ・アルツルの町の通りで、田舎軍が、催涙弾を投げた。
- ・ジェニンキャンプで、占領軍の銃撃で、2人が殉教した。
- ・占領軍は、デイル・サメットで占領軍は学生が学校に行くのを妨害した。
- ・国連は、パレスチナに好意的な4つの決議を採択した。
- ・占領軍はツクの男子学校の校長を拘束し、学生の逮捕を要求した。
- ・イサウィヤが襲撃され、少年が逮捕された。
- ・ヘブロン以南で、占領当局は、2軒の家を取り壊し、2件の

オリーブの会通信 第27号(通巻33号)

家とバラックに建設停止の通告を行った。

- ・ヘブロンを中心部で、入植者たちに攻撃されて、少年が負傷した。
- ・占領当局は、ガザ国境の警戒レベルをあげ、エジプトとカタールにメッセージを送った。
- ・ライオンズ・デンは、ジェニンの殉教者を追悼し、銃撃作戦を行ったことを確認した。

12月2日

- ・ヘブロンでの占領軍の行動に反対するイスラエル左翼のデモが行われた。
- ・入植者たちはデイル・シャラフの土地から蜂の巣を盗んだ。
- ・ナブルスへの襲撃で、占領軍の銃弾で、重症。
- ・ハマスガザで西岸とエルサレムを支持するデモ
- ・入植者たちはテルルメイダで、住民と活動家を攻撃
- ・占領軍のカフル・カッダムの行進の弾圧で、3人が金属弾で負傷した。
- ・アルアクサモスクと周辺での逮捕
- ・ハワラで至近距離からパレスチナ人を処刑
- ・ハワラで占領軍の衝突で市民が銃撃された。
- ・ヘブロンの北、アルアロウブキャンプでの占領軍との衝突で、窒息者
- ・占領軍は、ジェニンの南西のダヘル・アベッド、カフルトの村、ヤバドの町を急襲した。

12月3日

- ・占領軍兵士たちがテルルメイダの検問所を閉鎖し、住民が家に戻れないようにした。
- ・サルフィットの西で入植者たちが50本のオリーブの苗を根こそぎにした。
- ・占領軍は、2人の姉妹をアルアクサから追放した。
- ・ライオンズ・デンは、市民に街頭に出て、占領軍との衝突するように呼び掛け
- ・占領軍は、イサウィヤの町を襲撃
- ・カランディアキャンプ近くで、占領軍との衝突が起こった。
- ・占領当局は、カラマ入植所でタモウンの市民を逮捕した。
- ・オスリンでの占領軍との衝突で窒息者
- ・ミサイルが落ちた、占領軍が、ガザの抵抗運動の観察所に発射した。
- ・占領軍は、ヨルダン渓谷で農業用のトラクターとカートを没収した。

12月4日

- ・青年が逮捕された、アルイサウィヤとシリワンが急襲された。
- ・パレスチナ人がベングリオン空港に車で突入
- ・入植者たちがアルアクサを襲撃
- ・西岸で逮捕と車の没収
- ・占領軍の航空機が抵抗勢力の拠点を爆撃し、抵抗勢力が応戦した。
- ・イスラエル：50以上の自治体が、ネタニヤフ政府に反逆する
- ・ガザの北東で、占領軍は市民を逮捕した。

- ・対峙：占領軍はシリワンを急襲し、旗と横断幕を没収した。
- ・占領当局は、旧市街とアルアクサのワクフの職員を2週間の追放とした。

12月5日

- ・サルフィットの西で入植者たちがオリーブの木を根こそぎにし、森の木に置き換えた。
- ・ラマラ、占領当局は、商業相の建設の休止を通告。
- ・サルフィットの西で占領軍のブルドーザーが、森の木を根こそぎにした。
- ・シリワンで、100人が巨樹する住居ビルの取り壊しが決定された。
- ・210回目のアルアラキブの村の取り壊し。
- ・人民戦線は、マンナの殉教への報復として爆弾を投げたことと責任を発表。
- ・シュファアトで、占領軍は、3人の少年を攻撃したあとと逮捕した。
- ・ヘブロンの北で、占領当局はカラミ・ズル入植地の拡大を始めた。
- ・占領軍は、ドラ市の西のモスクを取り壊した。
- ・占領当局は、イブラヒミモスクに、入植者用のエレベーターの建設を続けている。
- ・ガンマンが於夫羅入植に向かって発砲した。

12月6日

- ・占領軍は、 Beit-Umar を襲撃し、10軒の家を捜索した。
- ・サルフィットの西で、建設の停止の10通の通告が行われた。パレスチナ日誌27
- ・ヘブロンの南で、占領当局は、2軒の家を取り壊し、2件の・エルサレム、アルアクサで3人の若い女性が逮捕された。
- ・ヨルダン渓谷で、取り壊しの通告とトラック、建設資材の没収
- ・Beit-Umarへの占領軍の侵攻で、窒息者
- ・オスリンで、占領軍との衝突で負傷者。

12月7日

- ・ヘブロンの南で入植者たちが市民の車を攻撃
- ・ナブルスとラマラで負傷者。西岸で逮捕キャンペーン
- ・イサウィヤで、とりこわし通告の配布と召喚
- ・欧州は、占領警察との共同を凍結
- ・エルサレム：占領軍は、2人の少年を逮捕し、女性をアルアクサから追放した。
- ・アルアロウブの入り口で、占領警察は、2人の女性を逮捕した。
- ・銃撃作戦を行ったあとムジャヒド・ハメドが殉教した。
- ・占領当局はラス・アハマルの道を封鎖した。
- ・レバノン当局は、185人のイスラエルへの協力容疑者を逮捕
- ・ベツレヘムの西で、占領当局は農地を一掃した。
- ・占領軍は、Beit-Umarのメインの入り口を閉鎖
- ・イサウィヤとシリワンでの衝突で、占領軍は2人の青年が逮捕された。

12月8日

- ・ 占領軍は、西岸で大規模な逮捕キャンペーンを行っている。
- ・ 諜報活動の理由で、シンベトは、ガザの労働者を逮捕したと発表。
- ・ ヘブロン：取り壊しと建設の停止の通告

12月9日

- ・ イスラエルは、占領下パレスチナを訪問する国連職員にビザを拒否
- ・ アラブ連盟：イスラエルの犯罪を非難することだけではもはや十分ではない国際社会は、責任を負わなければならない。
- ・ 占領当局は、殉教者タミーミの家を取り壊すことを承認
- ・ 占領軍は、殉教者むじゃヘッド・ハメドの父親の拘束を延長
- ・ ナブルスの南で入植者たちが、市民の車を攻撃
- ・ ラマラの北西のベイト・リマの町で占領軍は3人の青年を逮捕。
- ・ ナブルスの東、ベイト・ダジャンの市民を占領軍が逮捕
- ・ イスラム協力機構は、ジェニン・キャンプへの侵攻と3人のパレスチナ人の暗殺を非難した。
- ・ ベイト・ウマルの衝突で、実弾で青年が負傷し、数十人が窒息した。
- ・ 中国の国家主席は、パレスチナの国連への完全なメンバーになることを支持することを確認した。
- ・ ベイトダジャンの行進の弾圧で負傷者

12月10日

- ・ ヘブロンのイブラヒムモスク近くで青年を逮捕
- ・ ライオンズ・デンは、二つの作戦の履行を発表し、イスラエルの占領にメッセージを送った。
- ・ 占領軍は、ガザとの境界沿いに、銃撃と催涙弾を発射した。
- ・ ナブルスで車に発砲した後占領軍は2人の青年を逮捕した。
- ・ 民族評議会は、パレスチナの大義を支持するリヤド宣言を歓迎した。
- ・ ナビサレの衝突で、占領軍は少年を逮捕した。
- ・ 占領当局は、カルキリヤの東の土地の押収を通知
- ・ 取り壊し政策に抗議する48年領内のデモ
- ・ ベイト・ウマルで市民の葬儀で、窒息者。

12月11日

- ・ 占領軍はエルサレムでモロッコチームの勝利の祝賀を弾圧
- ・ 国連特使が、イスラエル軍のパレスチナの子供への虐待の捜査のためにテルアビブについた。
- ・ 占領軍はガザの境界で演習を開始した。
- ・ 入植者たちは、ヨルダン渓谷で土地を更地に死、バラックを立てた。
- ・ シリワン：アルブスタン近隣で居住施設についての喚問と通告
- ・ イスラエル当局は、アルタイベで市民に自分の家を取り壊すように強制
- ・ 国連は、イスラエルをシリアトの停戦を破ったと非難、。
- ・ ヘブロンの南で、12の家庭に、建設の停止を通告

12月12日

- ・ シリワンのエルサエム知事の家を急襲

- ・ イサウィヤ：占領自治体は、エルサレム市民に自宅を取り壊すように強制した。
- ・ 占領軍はジェニンでの少女の殺害の責任を回避。

- ・ ジェニンでの武装衝突の後、3人の市民を逮捕
- ・ 占領軍は、アルラバン・アルシャルキヤへの入り口に鉄のゲートを取り付けた。
- ・ 北部ヨルダン渓谷で、占領軍は、2台の農業用のトラクターを押収
- ・ 占領具は、ジェニンでの子供、ジャナ・ザカルネの殺害の責任を認めた。

12月13日

- ・ ナブルスの南の土地を入植地の拡大のために更地にした。
- ・ 占領軍は、ベイトーウマルの入り口で、青年を逮捕した。
- ・ ガザ：東部に占領軍の車両が侵入、ガザ中央では、発砲とサイル弾を発射した。
- ・ 占領軍は、アルラス・アルアハマルの市民をツバスの南東で逮捕した。
- ・ サルフィットの西で、カラワト・バニで県つの停止を通告する18の通知

12月14日

- ・ 占領軍は、ベイト・ウマルで子供を逮捕した。
- ・ ナブルスで占領軍は家を包囲し、諜報員を逮捕した。

12月15日

- ・ ヘブロンの北で、4人の市民が逮捕され、窒息した。
- ・ 占領軍は西岸での逮捕キャンペーンを開始。二人が負傷した。
- ・ 国連総会は、対数血で、パレスチナ人の自然への永遠の主権をみとめる決議を採択。
- ・ 占領軍はベイト・ウマルの子供を10時間の拘束後、釈放
- ・ イスラエルは、東部シリアのイランの標的を爆撃
- ・ サルフィットの西で、建設中止の7つの通告を行った。
- ・ エルサレムのナブルス通りで、占領軍は、屋台と子供を攻撃し、彼を逮捕した。
- ・ 入植者たちは、ナブルスの南の学校を攻撃した。
- ・ ヘブロン南部と西で、占領軍は2つのテントと農業キャラバンを没収した。
- ・ ヘブロンで専用当局は、建設中の家と井戸を取り壊した。

12月16日

- ・ 国連決議、パレスチナ人の自決権を支持
- ・ ベイトウマルの3人の若者が、逮捕された。
- ・ ベツレヘムの北のアイダキャンプへの占領軍の襲撃で窒息
- ・ カフル・カッダムの行進の占領軍の弾圧で、呼吸困難者が出ている。
- ・ アルアマリキャンプで、病気の獄中者ハミドさんの自由を呼びかける行進が行われた。
- ・ ネタニヤフ：パレスチナ人は、主権と安全保障を除いた自治が認められる。
- ・ ベイト・ダジャンの行進の弾圧の結果、呼吸困難者が
- ・ ジェニンの南で入植者たちと占領軍の攻撃
- ・ ナブルスのオスリンで占領軍との衝突で負傷者



モハメド・アサフ 歌

私の宣誓を守り、私の宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は民族のものであり、民族のために私の魂
を捧げます
我が血はパレスチナ人 パレスチナ人 パレス
チナ人 パレスチナ人
私の血はパレスチナ人

私たちはあなたのために立ち上がった 私たち
の祖国
我々の誇りとアラビズムで
アルクードの地が私たちを呼んだ
(母が私を呼ぶ声がする
パレスチナ人、パレスチナ人
私の血はパレスチナ人だ

私の誓いを守り、私の宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は民族のものであり、彼らのために私の魂
を捧げます
私の血はパレスチナ人 パレスチナ人 パレス
チナ人
私の血はパレスチナ人

お母さん 心配しないで
あなたの祖国は城壁で囲まれています
私はそのために魂を捧げます
私の血と血管を捧げます

私の誓いを守り、私の宗教に従います
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は民族のものであり、彼らのために私の魂
を捧げます
私の血はパレスチナ人、パレスチナ人、パレ
スチナ人
私の血はパレスチナ人

私はパレスチナ人だ 自由な家庭の息子だ
私は勇敢であり 常に冷静だ
私は祖国への誓いを守ります
私は誰にも屈しない
パレスチナ人 パレスチナ人
私の血はパレスチナ人

私の誓いを守り 私の宗教に従います
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は民族のものであり、民族のために魂を捧
げます
私の血はパレスチナ人 パレスチナ人 パレス
チナ人
私の血はパレスチナ人

<https://lyricstranslate.com>

歌は、youtube で検索してお聞きください。

モハメド・アサフは、「アラブ・アイドル」の
第二シーズンで優勝したことで知られるパレ
スチナのポップシンガー。1989年ガザで
生まれ、その姿は、2016年の映画「歌にのっ
た少年」の主人公として描かれている。



ピスタチオのバクラヴァ約 40 個分

バター風味のフィロ 30 層と香り高いピスタチオをたっぷり使って、トルコのパン屋さんからそのまま出てきたような、軽くてリッチなバクラヴァを作りました。レシピ動画付き

フィロが完全に解凍されていることを確認してから使用してください。冷蔵庫で一晩、またはカウンターの上に 4 ~ 5 時間置いてください。電子レンジは使わないでください。フィロの解凍は、必ずラップをかけ、湿らせたタオルで覆ってください。組み立ての際、一番下の層と一番上の層には、一番きれいで無傷のフィロシートを使い、真ん中の層には破れたフィロシートを使うと、その欠点が目立ちません。バクラヴァは 8 時間寝かせた後、冷やすと一番おいしくなるので、早めに計画を立てましょう。

材料

シュガーシロップ：(* 注を参照)

グラニュー糖 1 カップ (350g)

水 3/4 カップ

グルコースシロップ 大さじ 1 と 1/2 (28g/1oz) (お好みで、ただし推奨)

レモンの絞り汁 1 個分

テーブルソルト 小さじ 2 1/5 杯

オレンジブロッサムウォーター 大さじ 1 (お好みで加減してください。)

ナッツファイリング用

殻をむいた生のピスタチオ 3 カップ (無塩)、飾り用としてさらに 1 カップ。

パイ生地用

解凍したフィロ生地 2 パック (計 30 枚)。

1 1/8 カップ (255g/9oz) 溶かしたギー (または 1 カップ (340g/12oz) 無塩バター、以下の説明に従って澄まし、溶かし、少し冷ます) (1 1/8 カップ澄まし)

作り方

シュガーシロップを作る。

小鍋に砂糖、水、グルコースシロップ (使用する場合)、レモン、塩を入れ、中火で沸騰させ、時々かき混ぜながら砂糖が溶けるようにする。沸騰したら火を止め、オレンジブロッサムウォーターを加えて混ぜる。

注ぎ口のついた計量カップがグレービーボートに移し、完全に冷ましてから使用する。(冷めたシロップは密閉容器に入れて 4 日ほど冷蔵保存できる。)

を作り、ペストリーを作る。

オープンラックの位置を中央下に合わせ、オーブンを 150°C に加熱する。

ピスタチオをフードプロセッサーで 1 秒間に 15 回ほど細かくするまで攪拌し、ボールに移す。

13X9 インチの耐熱皿にギーまたは澄ましバターを塗る。大きめのまな板の上にフィロを広げ、手で平らにならす。フライパンを目安に、余分な部分を切り落としてサイズを調整し、フライパンにぴったり合うようにする。フィロにラップをかけ、その上から湿らせたキッチンタオルをかけて乾燥を防ぐ。

フライパンの底にフィロ 1 枚を敷き、ギーまたは澄ましバターを完全に塗るまで刷毛で塗る。さらに 7 枚のフィロを並べ、ギーまたはバターを塗る。これで合計 8 枚のフィロが重なったことになる。ピスタチオ (1 カップ) をのせ、均等にのばす。

さらにフィロ 6 枚を重ね、さらにギー / バターを塗り、その上にピスタチオ 1 カップをのせる。さらに 6 枚のフィロを重ね、さらにギー / バター、残りのピスタチオ 1 カップをのせる。

残りの 10 枚のフィロを、一番きれいな状態でフライパンに重ね、最後の層を除いて、各層にさらにギー / 澄ましバターを塗る。中心から外側に向かって、手のひらを使って層を圧縮し、エアポケットを押し出す。鋭利なナイフでバクラヴァを縦に 5 箇所、斜めに 8 箇所、菱形にカットする。残りのバター (大さじ 4 杯程度) を表面に塗る。

1 時間半から 1 時間半 (私は 1 時間半)、途中でフライパンを回転させながら、黄金色でカリカリになるまで焼く。

オープンから取り出したらすぐに、冷めたシロップを大さじ 2 杯程度まで切り口にかける (シロップが熱いフライパンにつくとジュワッと音がする)。ピスタチオをひとつまみずつ中央に飾る。

ワイヤーラックで室温まで約 3 時間冷やし、ホイルで覆い、少なくとも 8 時間放置してからサービスする。(冷めても美味しく召し上がれますが、8 時間以上置くと風味と食感が良くなります。バクラヴァはホイルでしっかり包み、室温で 10 日ほど保存できる)

バター (ギーの代わりに使用する場合) を澄ませる。

バター 1.5 カップ (340g/12oz) を中弱火でゆっくりと溶かし、乳固形分がバター脂肪から分離して鍋の底に溜まるまで溶かす。鍋を火から下ろし、バターを 10 分ほど落ち着かせ、表面の泡をスプーンで丁寧にすくい取る。鍋に残った牛乳の固形分をすべて捨て、澄んだバター脂肪をゆっくりとボールに注ぐ。約 1/8 カップ (255g/9oz) の澄んだバターができるはずだ。

フィロ (Filo または Phyllo) は、中東やバルカンの料理において、バクラヴァやブレク等のペストリーを作るのに用いられる、非常に薄く、イーストを含まない生地である。ギリシア語で「葉」を意味する ϕ λ λ σ という言葉に由来する [1][2]。多くのフィロの層を重ね、オリーブ油を塗った上で焼いてペストリーを作る。



パレスチナの緊急対応チームが地震の被災地で救助活動を行った。100人以上のパレスチナ人も犠牲となった。



2月2日入植者が、占領下エルサレム旧市街にある「キリストの投獄」教会を襲撃し、キリストの像などを破壊



2月14日クネセットへ司法改悪の決議に抗議するイスラエル国民



今号の内容

- 世紀の大惨事・・・・・・・・・・1
- 人間の良心を問う地震・・・・2
- 全てのアラブ民族に対する試練・・・・・・・・3
- 震災後のシリア・・・・4
- 非組織的な抵抗が拡大している・・・・6
- 創設者の思い描いた今日のイスラエル・7
- ネタニヤフ首相の疑惑に対して・・・・8
- パレスチナ日誌・・・・・・・・・・10
- パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
- おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・15
- トピック・・・・・・・・・・16



2月1日ジャバル・ムカベルで、家屋の取り壊しに抗議して、抵抗する青年たち



2月13日 イスラエル軍は、パレスチナへの報復としてガザの抵抗運動の拠点を爆撃。

イサウイヤで、占領当局により、自分のアパートを取り壊すことを強制されているエルサレム市民